OKBふれあい会館
サラマンカホール
ふれあいだより 特別号

SPECIAL INTERVIEW

スペシャル・インタビュー　VOL.1

垣内 響太 × 垣内 絵実梨

Kyota Kakiuchi（16）
Emiri Kakiuchi（13）

2019 年 12 月 22 日（日）「兵庫県立芸術文化センター“スーパーキッズ・オーケストラ”」に出演する、岐阜市出身の垣内響太さん、絵実梨さん兄妹にお話を伺いました。スーパーキッズ・オーケストラのメンバーでもあり、現在イギリス・ロンドンのメニューイン音楽院に留学しているお二人。

スーパーキッズ・オーケストラ（ＳＫＯ）は、世界的指揮者の佐渡裕さんが芸術監督を務め、音楽が大好きな小学生から高校生までの弦楽器によるオーケストラ。サラマンカホール初登場です。

――ヴァイオリンを始めたきっかけを教えてください。

響太：僕達のおじいちゃん、おばあちゃんがすごく音楽好きで、小さいころから家でクラシックがかかっていました。また、お父さんが学生の頃に大学のオーケストラでコンサートマスターをやっていたこともあり、気付いた時には自然と手にしていました。お父さんが言うには、２歳半の誕生日プレゼントとして一番小さいヴァイオリンを買ってくれて、手にしてすぐ弾き始めたみたいです。初めて触った日のことは覚えていませんが、小さいころから音楽を聴いていたので、これはなに !? とかは思わなかったです。７・８歳の年齢の子は野球選手やサッカー選手になりたい！もっと小さいと仮面ライダーになりたい！とかあると思うんですが、僕はそういうのが一切なくて、ヴァイオリン一筋でした。

絵実梨：兄がやってるのを見ていて、弾いているのがカッコイイと思って、レッスンに付いて行っていました。それで、気が付いたら兄と同じ若林亜由先生に習っていました。

――１日にどのくらい練習をしますか？

絵実梨：学校だと何時から何時までレッスンとか練習、何時から何時まで英語とか美術とか、１日のタイムテーブルが決まっています。

響太：学校があるときは、平日は４～５時間で、週末はずっと弾いています。今は夏休み中でＳＫＯの活動があるので、朝６時くらいに起きて電車に乗って、ほぼ一日中関西地区で練習して、２３時半頃帰ってくるという感じです。大体１０時から１８時までが練習時間です。長いですね。でも佐渡監督の指導のときは、特に中身が濃いです。

――イギリスのメニューイン音楽院に留学中ですが、この学校を選んだ理由は？

響 太：偶 然に偶然が重なってという感じです。もともと東京藝術大学教授であられた浦川宜也先生に小学校２年生よりヴァイオリンを師事していて、浦川先生がメニューイン音楽院を薦めてくれました。理由はレッスンが週２回あるということでした（実際は週４回あります）。それ以前は、イギリスではなくイタリアに留学する予定だったんです。でも、イタリアには全寮制の音楽学校がなくて諦めて、今度はスイスにいるヴァイオリンの巨匠ザハール・ブロン先生に教えてもらいたいと思ってスイスに行きました。そしたらスイスは１６歳までビザが下りないことが分かって（当時９歳）。ちょうどその当時、ブロン先生のアシスタントを日本人の坪井悠佳さん（チャイコフスキーコンクール第５位）が務めてみえて、坪井先生もメニューイン音楽院出身で、レッスンを何回か受けていたので留学の話をしたら同級生が教えているから行ってみたらと言われて出会ったのが、今の教授である小野明子先生です。浦川先生と明子先生もお互いに面識があるらしく、みんな繋がっていました。僕が９歳の時でした。それで、明子先生のレッスンを受けているときに学長がレッスンを聴きに来て、メニューイン音楽院の入学

オーディションを受けに来なさいと言ってくれたのが５月、その年の１０月に受けて、翌年の９月から入学しました。ちなみに日本人の男子は僕が初です。

絵実梨：たまたま小野先生もＳＫＯの特別指導者なんですよ。夏の間だけ。そこも繋がっていました。

―――今年３月にベルギー・ブリュッセルで開催された「２０１９若いヴァイオリニストのためのアルテュール・グリュミオー国際コンクール」では響太さんが１８歳以下の部門で優勝（２位はなし）、絵実梨さんは１３歳以下の部門での準優勝、おめでとうございます。コンクールについて聞かせてください。

響太：正直、あんまり覚えていないです。去年４月にメニューイン国際コンクールを受けたときは、全世界から予選をパスした２２人の子たちはほぼ全員お友達になっていて、仲がいいんですが、グリュミオーのときはあんまり喋らなくて。コンクールで審査員の先生に秀才って褒められたのが嬉しかったですね。

絵実梨：留学する前は、全日本学生音楽コンクールの第７０回の名古屋大会で小学校４年生で優勝したり、宗次ホールで開催されていたツィゴイネルワイゼンコンクールで入選したり、日本でいくつかのコンクールを受けていました。留学してから初めて受けたコンクールがグリュミオー国際コンクールです。日本のコンクールとは全然違って、不思議な感じがしました。

―――どのように違うんでしょうか。

絵実梨：日本のコンクールは、音程に対してすごく厳しいんですが、向こうは音楽性も重視しているので、音程のことばかり気にしなくてもよいのは、気持ち的には楽でした。

―――緊張はしますか？

響太：しません。小さい頃から人前で弾くのは慣れているので楽しいです。ソロはもちろん、室内楽とかで友達と弾くのがとても楽しいです。だからＳＫＯで弾いてるときも楽しくていつもニコニコしてます。合宿などで仲良くなって、練習も一緒に行ったりとても仲がいいです。

絵実梨：しなくなりました。人前で弾くのは好きで、コンサートなどで弾いた後、頑張って弾いて良かったらお客さんに褒められるじゃないですか。それがとても嬉しいです。

2019 年 9 月 2 日（月）サラマンカホールにて取材

＊VOL.2 は 10 月下旬発行予定です。

国内最強のキッズ・オーケストラがやって来る！

兵庫県立芸術文化センター

スーパーキッズ オーケストラ

指揮：岩村力

2019. 12/22日　開場13:30　開演14:00　チケット発売中

全席指定　一般 1,500円／高校生以下 500円

［サラマンカメイト：一般1,350円］　※未就学児の入場はご遠慮ください

《Program》　※曲目が変更になる場合があります。

J.S. バッハ：ブランデンブルク協奏曲 第 3 番

レスピーギ：リュートのための古風な舞曲とアリア 第 3 組曲

菅野よう子：花は咲く　　岡野貞一：ふるさと　ほか

演奏：スーパーキッズ・オーケストラ

サラマンカホール チケットセンター　✆058-277-1110　ほか プレイガイドにて　　主催：サラマンカホール　　サラマンカホール 検索